

『神の右の座で執り成して下さる主』

ヘブル人への手紙 12:2

イエスから目を離さないでいなさい。イエスは、…神の右の座に着座されました。

序]

今日のテキストには、イエスの十字架と昇天のことが記されていた。「神の御座の右に着座された」ということは、当然、イエスは十字架で終わったのではなく、復活されて、今も生きておられることを表す。とすれば、ヘブル12:2は十字架と復活と昇天のすべてが記されている。

本]

Ⅰ 昇天されたキリスト

* 「召天」と「昇天」の違い。(記述省略)

昇天とは、イエスが父なる神のもとに帰られたことだけを意味しない。人として経験された制約から解放されて、今やイエスはどこにでもおられることを意味する。彼は昇天されて、天にだけおられるのではなく、時空を超えて遍在しておられる。なぜ「イエスから目を離すな」と言われているか？それは、今もイエスが生きておられ、存在しておられるからだ。

Ⅱ 天の御座に着座されたキリスト

「着座」とは“王の権威をふるう”との意味がある。

* イザヤ6:1 ウジヤ王はソロモンの再来と言われたほど、南ユダの軍事力、経済、神信仰を復活させた王。しかし、彼が死んだ時、ユダの人々、特にイザヤは失望落胆した。しかし、その年に、彼は依然としてすべてを支配しておられる王の王、主が王座に着いておられるのを見た。

では、昇天されて、御座に着座された主は何をしておられるか？普通に考えられることは、罪人の我らを裁き、愚かさを糾弾する姿ではないか。しかし、ローマ8:34を見よ。今も生きておられる主は、天において、我らのためにとりなしをして下さっている。

そして、今朝、召天者記念礼拝を行なっているが、我らの敬愛する召天者がたは、主と一緒に、今、天において我らのために執り成しの祈りを捧げて下さっているのではないか。そして、彼らが願っておられることは、我らの救いと信仰である。

果たして我らは、彼らと同じように死んだあと、希望を持てるような場所に行ける自分だろうか？そのようになるためには、生きている間にその心備えをしなければならない。それは、キリストと召天者の執り成しの祈りに応答するかのごとく、キリストを信じて悔い改めることである。

結]

私が生涯を閉じる時、最後にしがみつく御言があるとしたら、小 3 の時に与えられた救いの御言である。「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」この約束に身をゆだねる時、天国への確信を抱ける。